

鳥類



トモエガモ

- 生物分類：カモ目カモ科マガモ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：絶滅危惧ⅠA類(CR)*1、絶滅危惧Ⅱ類(VU)*2
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年12月26日

日本には冬に湖沼などに飛来し越冬します。トモエガモの名前は、オスの顔にある黒色・緑色・淡黄色・白色の模様が巴型に見えることに由来します。とても珍しいカモで、区内では滅多に見られません。



カイツブリ

- 生物分類：カイツブリ目カイツブリ科カイツブリ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：準絶滅危惧(NT)*1
- 撮影場所：小石川後樂園
- 撮影日：2020年9月3日

河川や湖沼などの水辺に生息し、潜水して魚類や甲殻類、昆虫類などを食べます。写真の右側が親鳥、左側が幼鳥です。親鳥の夏羽は赤茶色を帯びて派手ですが、冬羽は少し地味な色になります。



ヨタカ

- 生物分類：ヨタカ目ヨタカ科ヨタカ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：準絶滅危惧(NT)*2
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2018年9月12日

日本には夏に山林に飛来して繁殖します。夜行性で、飛翔しながら昆虫類を食べます。夜鷹と書きますが、鷹とは全く別の生きものです。秋に渡りをする途中で、区内で羽を休めに来た個体と思われます。



ノスリ

- 生物分類：タカ目タカ科ノスリ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：絶滅危惧ⅠB類(EN)*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年1月7日

野山に生息するタカの仲間です。新たな餌場を求めて移動する途中で、区内でまたま羽を休めに来た個体と思われます。



アカゲラ

- 生物分類：キツツキ目キツツキ科アカゲラ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2018年1月16日

成熟した森林に生息しますが、区内では稀に樹林地などで越冬個体が見られることがあります。「キョッ、キョッ」と鳴きながら頻りに木々を移動し、昆虫類やクモ類、木の実などを食べます。



モズ

- 生物分類：スズメ目モズ科モズ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：絶滅危惧Ⅱ類(VU)*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2018年1月31日

疎林や農耕地などに生息し、区内では冬に見られることがあります。木の枝や生垣などの尖ったものに、バッタやカエルなどの獲物を串さしにする「はやにえ」と呼ばれる変わった習性があります。

鳥類

- 生物分類：スズメ目カラス科カラス属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅の庭
- 撮影日：2020年9月1日



ハシブトガラス

市街地から平地、山地などで一年中よく見られます。雑食性で何でも食べます。太い嘴と額が盛り上がったのが特徴のカラスです。



キクイタダキ

- 生物分類：スズメ目キクイタダキ科キクイタダキ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2018年12月21日

区内では主に冬に樹林地などで見られます。黄色い菊の花弁を頭部の頂きに載せているように見えることから菊戴（キクイタダキ）と言います。日本で最も小さい鳥の一種です。



ヤマガラ

- 生物分類：スズメ目シジュウカラ科コガラ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：絶滅危惧Ⅱ類(VU) *1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年11月3日

区内では主に冬に樹林地などで見られる鳥でしたが、近年はほぼ一年中見られるようになりつつあります。主に昆虫類や木の実を食べます。「ツツピーツツピー」と特徴のあるさえずりをします。



ヤブサメ

- 生物分類：スズメ目ウグイス科ヤブサメ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年9月28日

日本には夏に山林に飛来して繁殖します。小型で藪に多いことが多いため、「シィシィシィイ……」とだんだん大きくなるテンポのさえずりで、その存在を知ることが多いです。漢字では「藪雨」または「藪蛟」と書き、鳴き声が「藪に降る雨の音」のようであることに由来するとい説があります。秋に渡りをする途中で、区内で羽を休めにきた個体と思われる。



エナガ

- 生物分類：スズメ目エナガ科エナガ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年12月14日

樹林地に生息し、区内では主に冬季に見られる鳥でしたが、近年はほぼ一年中見られるようになりつつあります。丸い胴体と細長い尾を持つ姿を、柄の長い柄杓（ひしゃく）に例えたことになみまします。昆虫類や木の実などを食べます。



メボソムシクイ

- 生物分類：スズメ目ムシクイ科ムシクイ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年10月2日

日本には夏に山林に飛来して繁殖します。主に昆虫類を餌とすることから「虫喰」という名前が付いていますが、昆虫類を食べる鳥はムシクイだけではありません。目の上の眉のような黄白色の模様が他のムシクイ類と比べて細めであることが名前の由来です。秋に渡りをする途中で、区内で羽を休めにきた個体と思われる。



センダイムシクイ

- 生物分類：スズメ目
ムシクイ科ムシクイ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2018年9月8日

日本には夏に山林に飛来して繁殖します。ムシクイ類は姿がよく似た種類が多いので、鳴き声で識別するのがポイントです。「チチチヨチヨチ」と鳴くことから「千代（ちよ）ムシクイ」と呼ばれ、その「千代（ちよ）」が「千代（せんだい）」と呼ばれるようになったと言われています。秋に渡りをする途中で、区内で羽を休めにきた個体と思われま



ヒレンジャク

- 生物分類：スズメ目
レンジャク科レンジャク属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2018年2月6日

日本には冬に低地などに飛来し越冬します。多数群れる習性があり、これを雀の仲間が数多く連なることを意味する連雀（レンジャク）に準えた名を持ち、顔や尾の先端が赤いのが特徴です。



ミソサザイ

- 生物分類：スズメ目
ミソサザイ科ミソサザイ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年2月11日

薄暗い森林の中の溪流や沢の近くに生息しますが、区内では稀に樹林地などで越冬個体が見られることがあります。日本で最も小さい鳥の一種ですが、小さな体の割に高音で良く響く声で「チリリリリ」とさえずります。



トラツグミ

- 生物分類：スズメ目
ヒタキ科トラツグミ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：絶滅危惧Ⅱ類(VU) *1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年1月7日

主に低地の広葉樹林に生息し、昆虫類や木の実などを食べます。森の中で夜中に「ヒーヒー」「ヒョーヒョー」と細く寂しげな声で鳴くため、昔は鶺鴒（ぬえ）とも呼ばれ、妖怪の声として気味悪がられることがありました。



ツグミ

- 生物分類：スズメ目
ヒタキ科ツグミ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年2月15日

日本には冬に低地などに飛来し越冬し、区内では冬に比較的よく見られます。地面を跳ねるように飛んで昆虫類や木の実などの餌を探し歩く様子から、「鳥馬（ちょうま）」という別名もあります。



ルリヒタキ

- 生物分類：スズメ目
ヒタキ科ルリヒタキ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年12月3日

夏は比較的涼しい地域の森林で繁殖し、区内では冬に樹林地などで見られることがあります。写真の個体はオスで、きれいなルリ色をしています。メスは尾だけわずかにルリ色です。



ショウビタキ

- 生物分類：スズメ目
ヒタキ科ショウビタキ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年12月1日

日本には冬に低地などに飛来し越冬し、区内でも緑の多い公園などで冬に見られます。昆虫類や木の実などを食べます。写真の個体はオスで、メスは全体的に地味で淡褐色をしています。



ノビタキ

- 生物分類：スズメ目
ヒタキ科ノビタキ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年9月27日

日本には夏に比較的涼しい地域の草地に飛来して繁殖します。主に昆虫類を食べます。写真の個体はオスで、夏は頭や背中などが黒くなります。メスはオスよりも黒味が少ない特徴があります。秋に渡りをする途中で、区内で羽を休めにきた個体と思われます。



キセキレイ

- 生物分類：スズメ目
セキレイ科セキレイ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2018年10月12日

溪流や沢の近くに生息しますが、区内では緑のある水辺の近くなどで越冬個体が見られることがあります。主に昆虫類やクモ類を食べます。



マヒワ

- 生物分類：スズメ目
アトリ科マヒワ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年1月2日

日本には冬に低地などに飛来し越冬し、たいていは群れで行動しています。区内では冬に樹林地などで見られることがあります。主に木の実など植物の種子を食べます。



ウソ

- 生物分類：スズメ目
アトリ科ウソ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：準絶滅危惧(NT) *1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2018年1月6日

区内では稀に冬に樹林地などで見られます。「ヒー」「ホー」と口笛のような鳴き声をするため、口笛を意味する古語「うそ」にちなんだ名です。写真の個体はオスで、メスは喉が赤くありません。



コホオアカ

- 生物分類：スズメ目
ホオジロ科ホオジロ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年10月8日

日本では数少ない旅鳥です。類に赤褐色の斑紋があるホオアカに似た小型の種であることが和名の由来です。秋に渡りをする途中で本来の渡りルートから外れ、区内でたまたま羽を休めにきた個体と思われます。

鳥類



カシラダカ

- 生物分類：スズメ目
ホオジロ科ホオジロ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年12月10日

日本には冬に農耕地や河原、草原などに飛来し越冬し、しばしば群れで行動します。主に草の種子を食べます。緊張すると冠羽を立てるので、この形から「頭高(カシラダカ)」と名付けられています。



アオジ

- 生物分類：スズメ目
ホオジロ科ホオジロ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年1月12日

夏は比較的に涼しい地域の山地で繁殖し、区内では冬に樹林地などで見られることがあります。アオジのアオは緑も含めた古い意味での青の意でオスの色彩に由来します。写真の個体はオスで、メスは顔が黒くなく薄い黄緑の二本の線模様が目立ちます。

両生類

- 生物分類：無尾目ヒキガエル科ヒキガエル属
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：アズマヒキガエルは準絶滅危惧(NT) *1
- 撮影者：りん
- 撮影場所：柳町小学校の横の公園
- 撮影日：2020年9月6日



アズマヒキガエル または ニホンヒキガエル

林に棲み、池や田んぼに産卵します。東京都にはアズマヒキガエルが棲んでいましたが、近年、西日本からの国内由来の外来生物であるニホンヒキガエルとの交雑が懸念されています。写真では両種の違いを識別する鼓膜の特徴が見えないので種の特定はできません。

- 生物分類：無尾目ヒキガエル科ヒキガエル属
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：アズマヒキガエルは準絶滅危惧(NT) *1
- 撮影者：かつちゃん
- 撮影場所：自宅庭
- 撮影日：2020年9月15日



アズマヒキガエル または ニホンヒキガエル

写真の個体は幼体ですが、両種の違いを識別する鼓膜の特徴が見えないので種の特定はできません。



アズマヒキガエル または ニホンヒキガエル

- 生物分類：無尾目
ヒキガエル科ヒキガエル属
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：アズマヒキガエルは準絶滅危惧(NT) *1
- 撮影者：寫太
- 撮影場所：大塚6丁目 自宅庭
- 撮影日：2020年10月12日

写真では鼓膜が小さいことが確認できることからニホンヒキガエルに見えますが、アズマヒキガエルとの雑種の可能性もあるので種の特定はできません。

爬虫類



ニホンスッポン

- 生物分類：カメ目
スッポン科スッポン属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：絶滅危惧1類(CR+EN) *1、情報不足(DD) *2
- 撮影場所：小石川後樂園
- 撮影日：2020年9月3日

河川の中・下流域や湖沼などに生息し、魚類や甲殻類、貝類、両生類など何でも食べます。他のカメと違って甲羅が柔らかく肺以外での呼吸も可能であるため、水中で砂や穴の中に長時間潜んで活動できます。すぐ噛み付く性格をしているため、迂闊に触るのは危険です。



アキアカネ

- 生物分類：トンボ目トンボ科アカネ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：ゼファーななはん
- 撮影場所：大塚公園内みどりの図書室脇
- 撮影日：2020年10月2日

一般に“赤とんぼ”と呼ばれるトンボです。夏に涼しい山地へ移動し、秋になると平地に戻ってきます。写真の個体は体色が赤くならないタイプのメスです。

- 生物分類：カメムシ目セミ科アブラゼミ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅の庭
- 撮影日：2020年10月6日



アブラゼミ

セミの抜け殻は、その土地の環境の状態を知る手がかりになります。セミの抜け殻が見つかるのは、樹木があり、土が程よく湿って柔らかいところです。写真の抜け殻は触角第3節が第2節よりも1.5倍くらい長く、太さも太いことから、アブラゼミです。

- 生物分類：カメムシ目セミ科
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅の庭
- 撮影日：2020年10月6日



セミ科の一種

セミの幼虫であるのは確かですが、触角や前脚の特徴がよく見えないので種は特定できません。市街地なのでアブラゼミかミンミンゼミではないかと思われます。

- 生物分類：カメムシ目セミ科
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅の庭
- 撮影日：2020年10月6日



セミ科の一種

セミの幼虫であるのは確かですが、触角や前脚の特徴がよく見えないので種は特定できません。市街地なのでアブラゼミかミンミンゼミではないかと思われます。



マツカレハ

- 生物分類：チョウ目カレハガ科 *Dendrolimus* 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：ゼファーななはん
- 撮影場所：文京区大塚4丁目18付近
- 撮影日：2020年9月4日

幼虫はマツの葉を食べ「マツケムシ」と呼ばれ、時々大量発生してマツ林を食害する森林害虫です。六義園や小石川後樂園で毎年行われる「こも巻き」は、マツの木についている害虫(マツカレハ)を除去するため、江戸時代から大名庭園で行われてきたとされる伝統的な駆除法です。

- 生物分類：チョウ目ヒトリガ科 *Spilosoma* 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅
- 撮影日：2020年11月20日



Spilosoma 属の一種 (キハラゴマダラヒトリまたはアカハラゴマダラヒトリ)

幼虫は写真だと種までは特定できません。幼虫はクワやサクラ、アブラナ科の野菜やマメなど、様々な植物の葉を食べます。一緒に写っているのはサクラの葉の落ち葉のようです。ちょうど越冬のために土に潜ろうとして地面に降りてきたところだったのかもしれない。

昆虫類



クローリハムシ

■生物分類：コウチュウ目（鞘翅目）

ハムシ科 *Aulacophora* 属

■由来：在来種

■重要種の指定状況：-

■撮影場所：本郷三丁目

■撮影日：2020年9月3日

体長6~7mmの小さい昆虫で、様々の植物の葉や花を食べます。成虫の状態です。かわい顔をしています。たまに害虫扱いされてしまうことがあります。

クモ類

■生物分類：クモ目ジョロウグモ科
ジョロウグモ属

■由来：

在来種

■重要種の指定状況：

-

■撮影者：

かっちゃん

■撮影場所：

自宅の庭

■撮影日：

2020年10月7日



ジョロウグモ
(の可能性が高い)

網とクモの大きさ・体形・色味、それに時期からジョロウグモかと思われそうですが、もう少しハッキリ写ってれば種を確定できたと考えられます。ジョロウグモの糸は黄色く目立つので、光が当たると金色に光って見えます。

種子植物類

■生物分類：

ヤマノイモ目ヤマノイモ科
ヤマノイモ属

■由来：

在来種

■重要種の指定状況：

-

■撮影者：

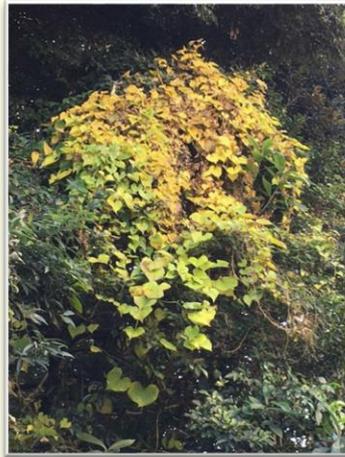
かっちゃん

■撮影場所：

御陵の裏側

■撮影日：

2020年11月17日



オニドコロ

(の可能性が高い)

ハート型の葉が互い違いにつくのが特徴の、山野に生えるつる植物です。夏に薄緑色の小さな花をたくさん咲かせます。

■生物分類：

クサスギカズラ目クサスギカズラ科ハラン属

■由来：

植栽種

■重要種の指定状況：

-

■撮影者：

かっちゃん

■撮影場所：

自宅の庭

■撮影日：

2020年10月6日



ハラン

大きくて光沢のある濃い緑色の葉が特徴的「葉蘭」とも書きます。春に地表面におわん型の花を咲かせます。

■生物分類：

クサスギカズラ目クサスギカズラ科ヤブラン属

■由来：

植栽種

■重要種の指定状況：

-

■撮影者：

かっちゃん

■撮影場所：

自宅前の階段

■撮影日：

2020年9月29日



フィリヤブラン

葉に斑の入ったヤブランの園芸品種です。紫色の花のあとには、黒紫色の実がなります。

■生物分類：

クサスギカズラ目ヒガンバナ科ヒガンバナ属

■由来：

植栽種

■重要種の指定状況：

-

■撮影者：

かっちゃん

■撮影場所：

自宅前の階段

■撮影日：

2020年9月29日



ヒガンバナ

中国原産で、日本全国の道端や田んぼの畔などに群生します。秋の彼岸の頃に鮮やかな赤い花を咲かせることから「彼岸花（ヒガンバナ）」と呼ばれます。花の時期に葉は無く、花が終わる秋に葉が出てきて、翌年春には枯れます。

種子植物類

- 生物分類：
ツクサ目ツクサ科
ヤブミョウガ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年9月28日



ヤブミョウガ

ミョウガに似た長楕円形の葉をしていますが、ミョウガとは全く異なる種です。6~7枚の葉が放射状につき、上から見ると葉が輪を描いているように見えます。

- 生物分類：
ショウガ目ショウガ科
ショウガ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年9月30日



ミョウガ

薬味として馴染の深い植物です。かつて茗荷谷駅の界隈では茗荷畑が広がっていました。



ミョウガ

- 生物分類：
ショウガ目ショウガ科ショウガ属
- 由来：植栽種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：寫太
- 撮影場所：大塚6丁目 自宅庭
- 撮影日：2020年10月14日

地下茎の先端につぼみをつけ、淡黄色の花を咲かせます。花は1日でしぼみます。5倍体(5組の染色体組をもつ個体)であるため、花が咲いても種子ができません。そのため、種子を経由しない栄養繁殖(クローン)で増えます。

- 生物分類：
イネ目イネ科メダケ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年9月30日



カムロザサ または
チゴザサ (の可能性ある)

カムロザサやチゴザサは葉に斑の入った観賞用のササで、背丈が低く、庭などによく植えられています。

- 生物分類：
イネ目イネ科アワ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
5丁目の空き地
- 撮影日：
2020年10月13日



アキノエノコログサ

名前は秋に咲くエノコログサに由来します。エノコログサは「狗尾草」と書き、花穂が犬の尾に似ていることになまみ。エノコログサとともに、その花穂は「猫じゃらし」と呼ばれます。

- 生物分類：
ブドウ目ブドウ科ツタ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年10月6日



ツタ

写真奥側にある、3裂する大きな葉をもったつる植物です。先端が吸盤状になった巻ひげを使って壁面をよじ登るように生えます。

種子植物類

- 生物分類：
マメ目マメ科クズ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
御陵の裏側
- 撮影日：
2020年11月17日

3枚1セットとなった大きな葉のつる植物です。塊根に含まれるデンプンが「葛粉」として利用されてきました。秋の七草の1つで、秋に紅紫色の花を咲かせます。繁茂力が高く、日当たりの良い所でよく繁茂します。



クズ



カシワ

- 生物分類：
ブナ目ブナ科コナラ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影場所：小石川後樂園
- 撮影日：2020年9月3日

かしわ餅でお馴染みの樹木です。どんぐりを付ける木で、葉っぱが大きいのが特徴です。秋に葉が枯れますが、枯れた葉は冬の間はほとんど落ちずに木に付いたまま残ります。

- 生物分類：
ウリ目ウリ科カラスウリ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年9月30日

山野や路傍に生えるウリ科のつる性多年草です。葉はハート型が3~5箇所浅裂した形をしており、表面にはピロードのような毛が生えています。



カラスウリ

- 生物分類：
ウリ目ウリ科カラスウリ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年10月6日

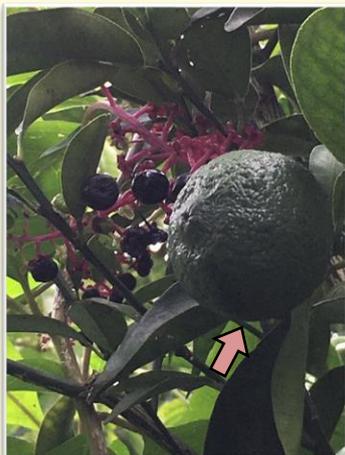
写真中央に、他のつる植物と混ざるように生えています。濃い緑色の葉脈が目立つ葉がカラスウリです。カラスウリの名前の由来は、鳥が好んで食べるからだとされていますが、実際に鳥が好んで食べてはいないように思われます。



カラスウリ

- 生物分類：
ムクロジ目ミカン科
ミカン属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年9月17日

ミカン属には多数の栽培品種があり、スタチも栽培品種の1つです。スタチの名前は、果汁を食酢として使用していたことから酢橘(すだちばな)に由来するといわれています。



スタチ

- 生物分類：
ムクロジ目ムクロジ科
カエデ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2019年12月24日

イロハモミジとヤマモミジの葉はよく似ています。イロハモミジは主に太平洋側に自生するのに対し、ヤマモミジの自生地は日本海側に限られます。イロハモミジ・ヤマモミジとも植栽木として各地に植えられており、都内ではどちらも見るすることができます。



イロハモミジ または
ヤマモミジ

種子植物類

- 生物分類：
ナデシコ目ヤマゴボウ科
ヤマゴボウ属
- 由来：
外来種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年9月17日



ヨウシュヤマゴボウ

太くて赤みを帯びた茎と、ブドウのような黒紫色の実が特徴的です。実の果汁は染色力が強く、服や皮膚に付くとなかなか色がとれません。北アメリカ原産の有毒植物で、在来種の子ゴボウとは全く異なる種です。

- 生物分類：
ナデシコ目タデ科イヌタデ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年10月6日



ミズヒキ

細い枝に小さな赤い花をまばらにつける姿が特徴的で、ミズヒキの名は紅白に見える花序が水引（お祝儀袋の飾り帯）に似ていることに由来します。葉に毛がない場合は別種のシンミスヒキとなります。

- 生物分類：
ミズキ目アジサイ科
アジサイ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年10月6日



カシワバアジサイ

北アメリカ東部原産のアジサイの仲間です。一般的なアジサイ（鞠状の花序をつける）と異なり、穂のような細長い花序をつけます。

- 生物分類：
ナス目ナス科ナス属
- 由来：
在来種
(似た外来種が多い)
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
5丁目の空き地
- 撮影日：
2020年10月13日



イヌホオズキ
(の可能性が高い)

オオイヌホオズキ、アメリカイヌホオズキ、テリミノイヌホオズキなどよく似た外来種があります。正しく識別するためには、花や果実のつき方や形状・大きさなど様々な部位を確認する必要があります。有毒植物です。

- 生物分類：
シソ目モクセイ科
キンモクセイ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅近くの道路
- 撮影日：
2020年10月11日



キンモクセイ

中国南部原産で、日本には江戸時代に渡来したと言われています。秋に香りの強い橙黄色の小さな花を、枝と葉の付け根に束状に咲かせます。

- 生物分類：
シソ目ノウゼンカズラ科ノウゼンカズラ属
- 由来：
外来種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年10月6日



ノウゼンカズラ

写真手前の鋸歯(きよし:葉の縁のギザギザ)が目立つ植物です。小葉が3~6対で1セットになった葉が特徴的です。中国原産で、平安時代には日本に渡来していたと考えられています。

種子植物類

- 生物分類：
キク目キク科ノゲシ属
- 由来：
在来種または外来種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
文京区五丁目、坂下通りの
空き地
- 撮影日：
2020年11月18日



ノゲシ
またはオキノゲシ

両種を見分けるポイントは、葉の付き方とタネの表面です。葉が茎を巻かずに三角形で、タネの表面に縦にも横にも筋が入っていたら在来種のノゲシです。葉が茎を巻き込むように生え、タネの表面が縦筋のみだったら外来種のオキノゲシです。

- 生物分類：
セリ目ウコギ科キツタ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年10月6日



セイヨウキツタ

ヨーロッパや西アジアが原産の、常緑のつる植物です。観賞植物として、葉の形や斑の入り方の異なる様々な品種が植栽されています。

シダ類

- 生物分類：
トクサ目トクサ科
トクサ属
- 由来：
逸出種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年9月30日



トクサ

ツクシの仲間です。春～夏頃には、先端にツクシのような孢子嚢穂がついているのを観察できるかもしれません。

- 生物分類：
ウラボシ目メシダ科
ウラボシノコギリシダ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年9月30日



イヌワラビ

最も普通に見られるシダの1つですが、葉の大きさ・色・形には変異が多く、全く別種のように見える個体もあります。

菌糸類

- 生物分類：
ウラボシ目オシダ科
ヤブソテツ属
- 由来：
逸出種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年10月6日



オニヤブソテツ
(の可能性が高い)

光沢のある力強い葉が目を引きますが、似た種が多く、種の特定には細部をしっかりと確認する必要があります。オニヤブソテツは沿岸部に自生しますが、内陸部では植栽からの逸出個体が見られます。

- 生物分類：
ハラタケ目ヒラタケ科
ヒラタケ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
-
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年10月6日



ヒラタケ

木材腐朽菌と呼ばれる腐生菌の一種で、様々な広葉樹の幹や根元、枯れ木などで見られます。栽培も盛んで、シメジという商品名で広く流通しています。

<重要種とは>

固有性、希少性、立地依存性、脆弱性や学術性などの観点から重要と考えられる生物種を“重要種”と呼びます。

本アルバムでは、下記に該当する生物種を“重要種”として選定しています。

<重要種のカテゴリー>

レッドデータブック (東京都区部) *1	レッドリスト (環境省) *2	基本概念
絶滅 (EX)	絶滅 (EX)	既に絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種
—	絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
留意種 (*)	—	現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、留意が必要と考えられるもの

*1:「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(東京都、平成 25 年 3 月) の区部に該当する掲載種

*2:「環境省レッドリスト 2020」(環境省、2020)

<外来種とは>

もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物種を“外来種”と呼びます。

本アルバムでは、下記に該当する生物種を“外来種”として選定しています。

- ①「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 法律第 78 号) に基づき指定された特定外来生物
- ②国立研究開発法人国立環境研究所「侵入生物データベース」に掲載の生物種

本アルバムでは、上記の“外来種”に該当しない種の由来については下記の定義をしています。

- ・園芸品種：人為的に改良された品種として植えられたもの
- ・植栽種：人為的に植えられたもので、園芸品種として判別できなかったもの
- ・逸出種：人為的に植えられたり飼育されたりしたものから逸出したと考えられるもの
- ・不明：種が特定できないものや、種の由来に諸説あるものなど

文京区資源環境部環境政策課

〒112-8555 文京区春日一丁目 16 番 21 号

電話 03 (5803) 1276

文の京生きもの写真館 ホームページ

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bosai/kankyo/jouhou/ikimonosyasinkan.html>
